

平成 2 2 年度

(第 1 / 3 回)

(集団研修)

持続的農村開発のための畜産振興

実施要領

平成 2 2 年 7 月

独立行政法人国際協力機構 (JICA)

Japan International Cooperation Agency

目 次

1. 案件基本情報	1
2. 案件の背景・目的	1
3. 案件目標	2
4. 単元目標	2
5. 研修成果品	2
6. 研修員参加資格要件	3
7. 研修実施体制	3
8. 研修の評価	4
9. 研修付帯プログラム	5
10. 主な宿泊場所	5
11. その他	6

参考資料

- 付表－1 研修員関連情報
- 付表－2 研修日程（案）
- 付表－3 年度別受入実績表

1. 案件基本情報

(1) 案件名

和文：（集団研修）持続的農村開発のための畜産振興

英文：Group Training Program on “Animal Agriculture for Sustainable Rural Development”

(2) 受入期間

平成 22 年 7 月 19 日（月）～ 9 月 18 日（土）

(3) 技術研修期間

平成 22 年 7 月 22 日（木）～ 9 月 17 日（金）

(4) 受入人数、割当国

受入人数：9 名

割当国：フィジー、インドネシア、マラウイ、ネパール、タイ、ジンバブエ、パラグアイ（下線は受入国）

(5) 研修類型：課題解決促進型

(6) 使用言語：英語

(7) 関係省庁：文部科学省

2. 案件の背景・目的

多くの途上国の農村では家畜飼養が生計の一部として組み込まれており、家畜は、乳肉の供給、農作物用の肥料、緊急時の糧として生計を支えている。畜産を振興する途上国において食料の生産性向上を図るためには、家畜生産・加工技術の向上、疾病対策の強化、インフラ整備等解決しなければならない共通な課題は多い。しかし一方で、途上国の農村では、飼料不足、不適切な家畜飼養管理、畜産物の劣悪な品質管理状況、脆弱な加工流通システム、天災の影響、経済低迷等の諸要因が複雑に絡み合って、食料の生産性が確保されない状況にある。

本案件では、持続可能な農村開発により食料の生産性向上を図るために、各途上国において状況が異なる「畜産を取り巻く様々な環境」に対応した適切な畜産改善計画が策定さ

れることを目的としている。

3. 案件目標

畜産振興を担う組織において、持続的農村開発のための畜産改善計画の方向性が整理される。

4. 単元目標

- (1) 自国の農畜産業が抱える問題点、改善課題が予備的に整理される。
- (2) 問題解決・生産性向上に向けた適正レベルの家畜生産技術が整理される。
- (3) 農畜産物・副産物の適切な利用、加工、流通を通して農村生活を改善するための方策が整理される。
- (4) 北海道・十勝の農畜産業と関連産業の視察、技術研修を通して、自国への技術導入・活用の可能性が整理される。
- (5) 自国における農畜産業の持続的発展のための問題解決・改善の方向性が示される。

5. 研修成果品

ア) 本邦研修実施前

「初期報告書 (Inception Report)」の作成

研修の主題にかかる研修員および所属組織の課題やそれに対する現在の組織としての対策・枠組みをまとめ、本邦でのコース開始時に発表する。

イ) 本邦研修終了時

「中間報告書 (Interim Report)」の作成

研修で学んだ知識や技術等を基に「4. 単元目標」にかかる自国の畜産振興計画(案)を作成し、コース終盤に発表する。

ウ) 帰国後の事後活動

「最終報告書 (Final Report)」の作成

最終報告の提出にあたっては、先ず帰国後３か月以内に各研修員が作成した素案を提出させ、当該素案に対して必要な助言を加えた上で、最終的にはその３か月後に帰国研修員の所属組織に承認された最終報告を提出させる。

6. 研修員参加資格要件

（募集要項記載条件）

- ア. 畜産振興を担う行政機関・研究所・酪農協などの非営利組織の主任クラス、大学の講師クラス以上の者。
- イ. 畜産に関する技術開発・政策立案について３年以上の経験を有する者。
- ウ. 畜産振興に係る計画を企画・立案または提言できる立場にある者。

（各案件共通資格要件）

- エ. 所定の手続きにより割当国政府から推薦されること。
- オ. 大学卒業あるいは同等の学力を有すること。
- カ. TOEFL iBT 72 点（CBT 200 点／PBT 533 点）以上に相当する英語能力を有すること。
- キ. 心身ともに健康なこと。
- ク. 軍に属していないこと。

7. 研修実施体制

本案件は、コースリーダーの助言のもと、独立行政法人国際協力機構帯広国際センター（JICA 帯広）が計画するコースの実施に関する業務を国立大学法人帯広畜産大学に委託し、関係諸機関の協力により実施・運営する。技術研修期間中、財団法人日本国際協力センター（JICE）所属の研修監理員を配置する。具体的業務分担は次のとおり。

(1) JICA 帯広

- ア. 実施計画書作成（案件目的、案件目標、研修期間など）
- イ. 評価
- ウ. 実施予算の執行管理

エ. 募集要項および実施要領等の作成 等

(2) 帯広畜産大学

ア. 日程表の調整・作成

イ. 講師、視察先等への連絡・確認

ウ. テキスト、資料等の手配 等

(3) コースリーダー

研修の計画、実施、評価の全般にわたる助言 等

(4) 研修監理員

ア. 関係者間の連絡調整

イ. 通訳・翻訳 等

8. 研修の評価

(1) 評価の目的

案件目標（1 頁参照）に基づき、研修成果の測定・分析を通じてコース終了時に当初目標の達成度を確認する。また、今後の研修で改善すべき点をあげ、本案件の質的改善を図る。

(2) 評価の方法

ア. コースリーダー等による到達目標の達成度把握

イ. 研修員が提出する質問票による評価

ウ. JICA による評価

(3) 評価会

研修終了時に質問票の記載事項の確認を中心とした評価会を実施する。

(4) 反省会

研修員の帰国後に、評価結果に基づき JICA 帯広、コースリーダー、講師、帯広畜産大学等が参加し、研修の目的・内容、プログラム構成、指導方法等について協議し、翌

年度以降の改善に向けて対応方針を検討する。

9. 研修付帯プログラム

(1) ブリーフィング

来日直後に帯広国際センター（以下 OBIC: Obihiro International Center）で実施する。JICA 業務およびコース概要説明、研修員登録、旅券・査証の有効期間の確認、支給される諸手当の説明等のほか、日常生活を送る上での諸注意を行う。

(2) ジェネラルオリエンテーション

OBIC で実施し、日本の社会と日本人、歴史・文化、政治・行政、経済、教育などを紹介する。

(3) 日本語講習

研修員の日常生活および国際交流のため、簡単な日常会話程度の語学力修得を目的として5時間の日本語講習を実施する。

付帯プログラム日程（予定）

日 程	内 容
7 月 20 日（火）	ブリーフィング
21 日（水）	ジェネラルオリエンテーション
24 日（土）	日本語講習
31 日（土）	日本語講習

10. 主な宿泊場所

帯広国際センター（OBIC）

所在地：〒080-2470 帯広市西20条南6丁目1-2

Tel (0155) 35-2001 Fax (0155) 35-2213

11. その他

(1) 修了証書

研修を修了した研修員に JICA から修了証書を授与する。

(2) 研修員の待遇

ア. 入国資格

技術研修を受けるために来日する者は研修査証を取得し、滞在中は日本国法規の適用を受ける。

イ. 滞在費

JICA 規程に基づき研修を受けるために必要な手当が支給される。

(3) 国際理解教育

国際理解教育の支援のため、本コースに地域の小中学校や住民との相互理解のためのプログラムが一部含まれている。

以上



独立行政法人国際協力機構 帯広国際センター
〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1番地2
TEL : 0155-35-1210 FAX : 0155-35-1250
ホームページ : www.jica.go.jp/obihiro/
メール : jicaobic@jica.go.jp

研修員関連情報

研修員情報（英語力はリスニング／スピーキング／記述読解能力の順に4段階で示す。A:優、B:良、C:可、D:自信なし）

No	①氏名②研修員番号 ③年齢④性別 ⑤国名、県又は地名	①現職②現職期間 ③最終学歴（専攻） ④英語力⑤研修経験	①候補者の業務内容 ②所属先の業務内容	研修で学びたい項目
1	① Mr. SAPUTRA Agung ② D-10-02704 ③ 26歳 ④ 男性 ⑤ インドネシア	① 農業省乳牛繁殖センター(NDBC) 計画・財務担当官 ② 5ヶ月 ③ ディボネゴロ大学(畜産学) ④ BBBB ⑤	① ・乳牛管理費(飼料、施設、インフラ)に関する予算計画 ・乳用繁殖牛管理のためのSOP(標準作業手順)資料作成 ・NDBCの実績評価(乳質、乳量、生産管理、繁殖成績、繁殖システム) ② ・乳用繁殖牛改良 ・乳用種及び他資源の生産、マーケティングに関する政策実施 ・人材開発、酪農振興、インフラ整備、乳牛評価および情報管理システムの構築	・乳牛繁殖技術 ・牛の固体識別および登録システム導入のための乳用繁殖牛の記録及びデータ処理システム
2	① Dr.NIRMAL Bimal Kumar ② D-10-02884 ③ 46歳 ④ 男性 ⑤ ネパール	② 農業・協同組合省畜産局家畜改良センター 主任畜産振興官 ② 1年 ③ ヒマラヤ農業科学技術大学 (食肉科学、公衆衛生、食品化学) ④ AAAA ⑤ タイ国際協力事業団(タイ))6月~7月'08 鳥インフルエンザ対策、調査	① ・国立家畜改良センター管理 ・家畜改良政策、戦略策定 ・凍結精液の生産、配布および人工授精プログラムのモニタリング ・研究者、獣医師、酪農及び食肉組合、農業者、人工授精師、栄養士、家畜ヘルスワーカー、NGOなどとのコーディネーション ② ・家畜生産拡大及び生産性改善による食糧安全、栄養保障 ・総合的農村開発および商業的畜産振興による雇用拡大と貧困削減 ・良質な付加価値畜産物の輸出振興による所得創出	・家畜衛生、繁殖、栄養管理 ・家畜および畜産物の市場との繋がりが ・良質かつ衛生的な畜産物生産のための畜産システム ・酪農協へのサービス提供および酪農協の畜産普及への連携 ・環境に優しく持続可能な家畜副産物利用 ・家畜生産拡大および生産性改善に関する問題識別、政策策定手法
3	① Dr.SAH Deo Nandan ② D-10-02885 ③ 48歳 ④ 男性 ⑤ ネパール	① 農業・協同組合省畜産局研修・普及部 畜産振興官 ② 15年 ③ ヒマラヤ農業科学技術大学 (酪農化学) ④ AAAA ⑤ IPC Lve Stock Benavald (オランダ) 8月'99-7月'00 養鶏	① ・研修プログラムの計画、予算配分 ・研修コース調整 ・カリキュラムの作成、見直し ・研修実施 ② ・家畜及び畜産物の生産、加工、マーケティングに関与する人材の研修・普及活動による能力強化	・畜産における問題分析技術 ・家畜管理に関する新たな展開 ・農産物、特に乳製品の品質保持技術 ・農協の能力強化 ・農業副産物の利用、加工、流通
4	① Mr. RUENGPAIBUL Sinchai ② D-10-03072 ③ 51歳 ④ 男性 ⑤ タイ	① 畜産開発省畜産開発・技術移転局 酪農普及専門官 ② 2年 ③ カセサート大学(家畜生産) ④ BBBB ⑤ JICA(家禽生産、繁殖技術)5月~10月'94 JICA(小規模酪農開発ワークショップ)11月'04	① ・研究、開発および普及員、農業者への技術移転 ・酪農開発戦略計画、モニタリング ② ・研究、開発および知識、技術の移転 ・品質基準を満たす生産効率改善 ・家畜疾病対策 ・畜産物の品質水準および法遵守の監督、促進	・職業としての農業の持続性創造 ・父から子へと農業を継続するための指導手法

5	① Mr. CHIKOHW Addmore ② D-10-02985 ③ 40歳 ④ 男性 ⑤ ジンバブエ	① 農業省家畜生産局 家畜専門官 ② 5年 ③ ジンバブエ放送大学(農学) ④ BBBB ⑤	① ・家畜生産に関する職員、農業者研修実施 ・畜産農家への技術指導、普及サービスの提供 ・家畜生産に関する農場での適応研究の実施 ② ・畜産農家への適切且つ効果的な持続的技術指導、普及サービスの提供 および経済的に存立できる持続的家畜生産システムの確立による国民の 生活水準向上および食糧安全保障、栄養改善、食糧自給の実現に寄与する	・持続的農村開発のための家畜生産手法(繁殖,給餌, 保健,衛生管理,加工,流通)
6	① Mr. KARIKARI Alipate ② D-10-03106 ③ 29歳 ④ 男性 ⑤ フィジー	① 農業省家畜衛生・生産部 農業普及補佐官 ② 7年 ③ フィジー農業大学(熱帯農業学) ④ BBBB ⑤ なし	① ・ブア州における食糧安全保障強化および所得創出を目的とする 家畜衛生、法規制執行及び普及活動による全ての畜産振興 プログラムの企画、調整、実行 ② 家畜生産、畜産物加工、市場流通において効率的、環境的、 経済的および社会的持続可能な手法による全ての畜産部門の 市場競争力強化	・畜産振興計画立案手法-地域農業社会、環境、経済 に適合する畜産振興計画
7	① Mr. GONECA Tevita Nabura ② D-10-03107 ③ 48歳 ④ 男性 ⑤ フィジー	① 農業省家畜衛生・生産部 農業普及官 ② 2年 ③ フィジー農業大学(熱帯農業学) ④ BBBB ⑤ なし	① ・ピティレブ島南西部地域における全ての家畜生産プログラム、 普及活動、家畜衛生および家畜衛生法に基づいた法規制の 執行に関する企画、調整、実行 ② 家畜生産、畜産物加工、市場流通において効率的、環境的、 経済的および社会的持続可能な手法による全ての畜産部門の 市場競争力強化	・家畜繁殖 ・家畜栄養管理
8	① Dr.FERNANDEZ-VERDUN Paola Katia ② D-10-03214 ③ 32歳 ④ 女性 ⑤ パラグアイ	① 農業・畜産省 技術スタッフ(獣医) ② 4年 ③ アスンシオン大学(獣医学) ④ BBBB ⑤	① ・国家畜産開発プログラムにおいて農村地域の低所得小規模農家支援に 関する業務 ② ・持続的政策実行による畜産部門の強化、発展に寄与する	・地域資源(牧草、産業残渣等)、農産物、農業残渣の 飼料としての有効利用による生産コストを削減する 手法
9	① Ms. WOOD QUEVEDO Melody ② D-10-03212 ③ 29歳 ④ 女性 ⑤ パラグアイ	① アサンシオン酪農組合(APROLE)乳生産部 乳生産マネージャー ② 5年 ③ アスンシオン大学(農業工学、家畜生産) ④ AAAA ⑤ カリフォルニア工業大学(酪農経営)'06~'07	① ・地域酪農家への技術支援 ・2人のアシスタントが各農場で収集した乳牛の情報(飼養環境、栄養状態等) を処理し、結果に応じて改善方法などの助言を行う ② ・地域酪農家への技術支援および組合員情報収集、処理、管理	・乳牛の飼料生産のための持続的農業 ・環境保全及び飼養環境改善

研修日程(案)

講義時間 9:00～12:00, 13:30～16:30

日 時	区分	カリキュラム(予定)	担当講師・機関	研 修 場 所
7/18	日	来日日		
7/19	月	海の日		
7/20	火	入館式・集合ブリーフィング		
7/21	水	ジェネラルオリエンテーション／集合ブリーフィング		
7/22	木	市長表敬・コースオリエンテーション・開講式 9:00～12:00 インセプションレポート発表会 13:30～15:30		
7/23	金	講義 コース概念と目的 実習 課題解決型コースのインストラクション	手塚/小疇	
7/24	土	日本語講習		JICA帯広
7/25	日			
7/26	月	講義 世界情勢と地域農業 講義 日本の農畜産業：過去、現在、未来	仙北谷 耕野	
7/27	火	講義 持続的農村開発と畜産の役割 1 講義 持続的農村開発と畜産の役割 2	仙北谷 門平	
7/28	水	実習 問題分析WS (capacity assessment)	手塚/小疇	JICA帯広
7/29	木	実習 問題分析WS	手塚/小疇	JICA帯広
7/30	金	討論 問題分析WS	手塚/小疇	JICA帯広
7/31	土	日本語講習		JICA帯広
8/1	日			
8/2	月	講義 乳牛の遺伝的改良の戦略と方法について理解を深める 講義 人工授精の組織と技術について理解を深める	ジェネティクス北海道 ジェネティクス北海道	
8/3	火	講義 繁殖障害・周産期病について理解を深める 講義 受精卵移植サービス	三宅 松崎	
8/4	水	講義 品種の環境適応性と生産・繁殖効率 討論 到達目標に関するディスカッション	手塚 手塚	
8/5	木	講義 生産性向上のための家畜管理 講義 乳房炎の原因とその対策	瀬尾 古村	
8/6	金	講義 サイレージの調製と飼料給与法 実習 サイレージの調製と飼料給与法	河合 河合	
8/7	土			
8/8	日			
8/9	月	講義 伝染病と疫学 講義 生態系・環境との共存	門平 門平	
8/10	火	討論 到達目標に関するディスカッション 講義 乳牛の飼養管理コンサルタント	門平 武中	
8/11	水	講義 牛乳生産の衛生管理 実習 牛乳生産の衛生管理	木田 木田	
8/12	木	講義 副産物の利用 実習 副産物の利用	花田 花田	
8/13	金			
8/14	土			
8/15	日			
8/16	月			
8/17	火	講義 暖地型牧草の利用 実習 暖地型牧草の利用	川本康博 川本康博	
8/18	水	講義 家畜の栄養状態の把握(BCS) 実習 家畜の栄養状態の把握(BCS)	木田 木田	
8/19	木	講義 家畜の栄養 実習 家畜の栄養	西田 西田	
8/20	金	討論 到達目標に関するディスカッション 討論 中間計画書作成指導	河合 手塚	
8/21	土			

8/22	日				
8/23	月	講義	村落レベルでの普及活動	門平	
		実習	村落レベルでの普及活動	門平	
8/24	火	講義	農協の組織と機能	仙北谷	大学
		視察	農協の視察	仙北谷	川西農協
8/25	水	視察	牛乳・乳製品の流通ー集乳・加工・流通ー:よつ葉乳業	仙北谷	よつば乳業
		講義	牛乳・乳製品の流通ー集乳・加工・流通ー	ホクレン講師招聘	大学
8/26	木	視察	農業後継者の育成:農業大学校の視察	-	未定
				-	未定
8/27	金	講義	畜産物の流通	齋藤	
		視察	畜産物の種類ー製品の特徴と地域適性ー	河田	明治チーズ館
8/28	土				
8/29	日				
8/30	月	講義	食肉加工センター(視察)	耕野	
		視察	グリーンツーリズム、鹿追(視察)	耕野	にしかみ農園
8/31	火	視察	畜産物の自家生産と販売(更別)	耕野	更別チーズ工房
		視察	畜産物の自家生産と販売(大樹)	耕野	源ファーム
9/1	水	講義	家畜共済制度と機能	耕野	大学
		視察	共済組合の視察	耕野	十勝農業共済組合 北部事業所
9/2	木	講義	農業改良普及制度について	招聘講師	
		討論	到達目標に関するディスカッション	仙北谷、耕野	大学
9/3	金	視察	学校訪問		
9/4	土				
9/5	日				
9/6	月	視察	研修旅行		
		視察			
9/7	火	視察	研修旅行		
		視察			
9/8	水	視察	研修旅行		
		視察			
9/9	木	講義	糞尿の活用法		
		講義	糞尿の活用法		
9/10	金	講義	汚染防止のための方策		
		実習	糞尿の圃場還元		
9/11	土				
9/12	日				
9/13	月	講義	バイオガスー小規模プラント、ジェネレーターの活用ー		
		討論	到達目標に関するディスカッション	梅津、手塚	
9/14	火	実習	帰国後アクションレポート完成までの課題整理	手塚/小疇	
		実習			
9/15	水	実習	中間計画書作成指導	手塚/小疇	
		実習	プレゼン演習		
9/16	木	実習	中間計画書作成指導	手塚/小疇	
		実習	プレゼン演習		
9/17	金		中間計画発表会 0:00~00:00・評価会 00:00~00:00		
			閉講式 00:00~00:00・さよならパーティー 00:00~00:00		
9/18	土		帰国日		

年度別受入実績表

1. 応募／選定（受入）人数

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	累計
応 募 数	16名	11名	13名	14名	54名
受 入 数	9名	7名	9名	9名	34名

2. 国別受入人数

○男性 ●女性

国 名	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	累計
(アジア全域)					
スリランカ	○	○	○●		4名
インドネシア		○	●	○	3名
タイ			●	○	2名
ネパール				○○	2名
(アフリカ地域)					
マラウイ	○●	○○	○		5名
タンザニア	●				1名
ザンビア	○				1名
マダガスカル		○			1名
ジンバブエ	●	○	○○	○	5名
(中南米地域)					
パラグアイ	●			●●	3名
(大洋州地域)					
フィジー	○	○	○○	○○	6名
バヌアツ	○				1名
合 計	8カ国 9名	6カ国 7名	6カ国 9名	6カ国 9名	12カ国 34名